

# とりたて詞ダッテの機能と用法分類

言語学・応用言語学専門分野

1LT16040K

2016(平成28)年入学

平川絢瑚

2020(令和2)年1月提出

## 要旨

とりたて詞にはさまざまな種類と用法が存在し、中でもモ・デモやサエ・スラはその機能について様々な先行研究が存在する。一方、それらに比べて口語的であるダッテについては先行研究が少なく、寺村 (1991) をはじめデモやモと同様の機能を持つという言及にとどまっている例が少なくない。しかしながら、ダッテはそれら他のとりたて詞と様々な機能を共有しており、それがどの機能かによってモやデモ、サエ・スラとの互換性に差が生じるため、同様の機能と必ずしも言い切れるものではない。またダッテについての先行研究をはじめモ・デモ・サエ・スラなどのとりたて詞の研究における用法のラベルや分類は研究者によって異なっているため、特にモ・デモ・ダッテのラベルごとの互換性は一律ではないといえる。

そこで本論文では、他のとりたて詞についての先行研究も踏まえたうえで、不定語+ダッテ、譲歩、最低限、意外、同類、柔らげの 6 つの分類を設定し、更にその分類を実践するためにモ・デモとの互換性とは異なる条件を用いたフローチャートを提案する。

## 目次

1. はじめに .....	1
2. 提案する分類案とフローチャート .....	3
2.1. 分類案 .....	3
2.2. 不定語+ダッテ .....	3
2.3. 譲歩 .....	5
2.4. 最低限 .....	5
2.5. 意外 .....	6
2.6. 同類 .....	7
2.7. 柔らげ .....	8
2.8. フローチャートの提案 .....	10
3. 分類の実践 .....	11
3.1. 不定語+ダッテ .....	11
3.2. 譲歩 .....	13
3.3. 最低限 .....	15
3.4. 意外 .....	16
3.5. 同類 .....	17
3.6. 柔らげ .....	21
4. おわりに .....	23
付録 .....	24
A.1 寺村 (1991) .....	24
A.2 定延 (1995) .....	24
A.2.1 モ .....	24
A.2.1.1 基本的なモ .....	25
A.2.1.2 知識のまとめ上げ .....	25
A.2.1.3 事態実現可能性の推し量り .....	26
A.2.2 取り立て詞デモ .....	26
A.2.2.1 意外のデモ—観察対象の指定 .....	27
A.2.2.2 譲歩のデモ・逆接のデモ .....	27
A.2.2.3 確定回避のデモ .....	27
A.3 丹羽 (1995) .....	27
A.3.1 譲歩と同類の「だッテ」 .....	27

A.3.2 「にしても」「にしたって」との置き換え.....	29
A.4 中西 (2014).....	29
A.4.1 肯定的用法の「だって」の特徴.....	29
A.4.2 否定的用法の「だって」の特徴.....	30
A.4.2.1 否定的用法の「だって」の前提推意.....	30
A.4.2.2 否定的用法の「だって」の帰結推意.....	31
A.4.2.3 メタ言語的否定を表す否定的用法の「だって」.....	31
A.4.3 肯定的用法と否定的用法の共通点.....	31
参照文献.....	33

## はじめに

次の文は、とりたて詞ダッテを用いた文である。

- (1) a. 僕だってできるものならそうしたいよ。

[作例]

- b. 大雨だって必ず行きます。

[中西 2014: 230, (19)]

- c. こんなに素晴らしい本だって、当時は全然読まれなかったんだね。

[丹羽 1995: 483, ㊸a]

とりたて詞ダッテは同じくとりたて詞であるモ・デモがより口語的になったものとされている。そのため文中ではモ・デモと同じ機能を持つが、他のとりたて詞との交替において (2) のように交替できる場合とできない場合がある。

- (2) a. 僕 {だって/\*でも/\*も/\*さえ} できるものならそうしたいよ。

[作例]

- b. 大雨 {だって/でも/\*も/\*さえ} 必ず行きます。

[cf. 中西 2014: 230, (19)]

- c. こんなに素晴らしい本 {だって/でも/\*も/さえ}、当時は全然読まれなかったんだね。

[cf. 丹羽 1995: 483, ㊸a]

このような現象が起こるのは、それぞれのとりたて詞に複数の機能が存在し、機能を共有している部分とそうでない部分があるためだ。モ・デモ・サエ・スラ・ダッテは丹羽 (1995) や中西 (2014) をはじめとして (2) のようにしばしば互いに置き換えられ、その機能の異同について議論される。しかしながら置き換え先の用法の分類基準が曖昧であるため互換性が一律でない、もしくは互換できたとしても文の意味が異なってくるなどの問題が発生する。事実、とりたて詞モ・デモについての研究は多くなされているが、研究者によって分類の仕方が異なっている。

中でも口語的なダッテについては、例えば寺村 (1991) による研究では「譲歩のデモ」とほぼ同じ表現機能というだけにとどまっており、他のとりたて詞に比べて研究が手薄である。そこで本論文では、研究の多いデモやモではなくダッテが文中でどのような役割を果たすかというダッテの機能に着目する。その上で、どのような状況で各機能を持つのかという用法分類を行う。なお、本論文で扱うのはとりたて詞のダッテのみとする。すなわち、文頭に出

現するダッテや断定を表す助動詞ダ+引用・伝聞を表す助詞ッテは除外する。

## 提案する分類案とフローチャート

本章では、ダッテの機能についての新しい分類案を提案し、それぞれの分類について説明する。その後、実際に分類する上でのガイドラインとしてのフローチャートを提案する。

### 分類案

今回提案する分類は以下の (3) である。

- (3) a. 不定語+ダッテ...とりたてる対象が不定語であるもの。
- b. 譲歩...推論が当然であると思えるような事態や物量を例示し、逆接を作る。
- c. 最低限...数量詞+否定辞と共起するもの。数量が極端に少ないことを示す。
- d. 意外...実際に起こった事態の意外性を強調する。
- e. 同類...とりたてる対象が類似事態と同様の性質を持つことを示す。
- f. 柔らげ...事態や事物を例示する。類似事態が存在しない。

この分類案の特徴は主に 2 つあり、1 つは不定語や数量詞と否定辞を伴うダッテを他の用法とは別に分類したことである。もう 1 つはダッテと機能が近く先行研究でも頻繁に言及されるモ・デモとの交替という基準を用いていないことである。モ・デモとの交替を用いない理由は冒頭で述べた通り、モ・デモそれぞれに様々な用法が存在し機能を共有する場合もあればそうでない場合もあるので、単純な交替の可否ではその本質が見分けられないためである。なお、サエ・スラについてはダッテと共有する機能が限定されているためテストに互換性の如何を用いても分類に影響がないと判断し、使用した。次節からは、それぞれの分類基準とラベルについて先行研究を交えて説明を加える。

### 不定語+ダッテ

本分類では、不定語をとりたてるダッテを 1 つの用法として分けておく。とりたてる対象が不定語であることによって、先行研究で言及されているダッテの本来の表現機能や今回提案する用法分類のその他の用法とは若干異なる内省がもたらされるためである。この分類の例文として (4) のようなものが挙げられる。

- (4) a. 誰だって分かるよ。

[丹羽 1995: 474, ①a]

- b. いつだって行けます。

[作例]

ここで、不定語と共起するダッテを1つの用法として分類した理由について、寺村(1991)の研究を踏まえて述べる。

寺村(1991)はXダッテPについて、寺村(1991)の提案する譲歩のXデモPと同様の表現機能を持つと述べている。寺村(1991)は譲歩のXデモPについて(5)のように述べている。

- (5) 或る条件(A)が成立すると当然その帰結として(B)ということになる、という推論を仮定して、その推論を否定する意味をもって使われる。

[寺村 1991: 134-135]

寺村(1991)の述べる譲歩のダッテの例として、(6)のような文が挙げられる。なお、文末の()内は(3)の分類案に基づいた分類の名称である。

- (6) a. 先生 でも/だって できないだろう。(譲歩)

[寺村 1991: 138, (495)]

- b. こどもに でも/だって できますよ。(譲歩)

[寺村 1991: 138, (496)]

- c. そんなことはだれ でも/だって 知っている。(不定語+ダッテ)

[寺村 1991: 138, (497)]

ここで、前述の(5)に基づいて上の例文を見してみる。(6a)では、先生であるという条件(A)であれば当然帰結として(ある問題が)できるだろうという推論(B)を否定し、できないであろう事(P)を示す意味をもってダッテが用いられている。(6b)、(6c)も同様に、子供ならばできないだろう、誰もが知っているわけではないだろうという推論を否定しているといえる。

しかしながら、(5)の定義では捉えられないものとして(7)のような文が挙げられる。

- (7) a. そんなことは誰だってできる。

[作例]

- b. そんなことはどこだって許してくれない。

[作例]

(7)の文で用いられているダッテは、「誰もできないだろう」「どこも許してくれるだろう」という推論(B)が想定できる状況ではないため、寺村(1991)の定義にあてはまらない。とはいえ、(6c)のように不定語が伴っても「誰もできないだろう」という推論が想定できる文



が存在するのも事実である。そのためこのブレは、不定語の種類や不定語と否定辞の共起、文脈の違いなどダッテの機能とは別の要因によって生じるものであると考えられる。ここで不定語と共起し他のダッテと機能の違う印象を受けるものを分類しておくことで、それらの共起による内省のブレを防ぐことができる。

## 譲歩

譲歩のダッテの機能は「推論が当然であると思えるような事態や物量を例示し逆接を作る」というものである。分類されるのはダッテが後続する名詞の前にタトエが補えるもの（既定事実ではないもの）であるとする。(8) にタトエを補ったものが (9) である。

(8) a. 雨だって決行する。

[蓮沼 1997: 198, (1)]

b. 先生だってできないだろう。

[寺村 1991: 138, (495)]

(9) a. (たとえ) 雨だって決行する。

[cf. 蓮沼 1997: 198, (1)]

b. (たとえ) 先生だってできないだろう。

[cf. 寺村 1991: 138, (495)]

「譲歩のダッテ」という名称については寺村 (1991) のものを踏襲している。しかし前述の寺村 (1991) の定義とは少し異なり、条件 (A) は推論 (B) が当然であると言えるような事態や事物を、あくまでも例として挙げているものであるとする。つまり、この場合条件 (A) は実際に起こった事態ではない。「前にタトエを補うことができる」という分類基準については寺村 (1991) のデモについての言及を引用しているが、寺村 (1991) がデモを譲歩と提案に分けたうえでダッテは譲歩のデモと同様の表現機能を持つと述べたのに対し、似た機能を持ちながらタトエを補うことができないものも存在する。それについては、後節の「意外」の項目で説明を加える。

## 最低限

この用法は、数量詞と否定辞が共起した結果、(10) の例文のように生じる数量が極端に少ないもしくは無いことを示すような用法を分類したものである。なお、「この 3 人」や「その 3 個」などの指示詞を伴って特定の人物や物を表すものはこの類には含めないものとする。

(10) a. 今日は少しだって風がない。

[cf. 沼田 1986: 169, (70)]

b. 5分だってかからないだろう。

[作例]

(10) の例文は、「少くくは風があるだろう」「少なくとも5分以上はかかるだろう」という推論を否定しているという点では寺村 (1991) の定義にあてはまるものの、(11) のようにタトエを補うことができない例である。

(11) a. \* 今日 (たどえ) 少しだって風がない。

[cf. 沼田 1986: 169, (70)]

b. \* たどえ5分だってかからないだろう。

[作例]

この用法はどの先行研究でも1つの用法としては扱われていないが、数量詞と否定辞が共起する場合にのみ見られることから、限定的な用法であるものと判断して一分類とした。

## 意外

意外のダッテは2.3節の譲歩のダッテとは異なり、(12)のように実際に起こった事態や存在する事物から想像できる推論 (あるいは通念) を否定してその事態の意外性を強調するものである。

(12) a. こんなに素晴らしい本だって、当時は全然読まれなかったんだね。

[丹羽 1995: 483, ②a]

b. この辛さにはインド人だってびっくりした。

[中西 2014: 230, (20)]

(12) の例文では、「こんなに素晴らしい本ならば当時は読まれているはずだ」「(辛いカレーに慣れている) インド人ならばたいいの辛さでは驚かないだろう」というような推論を否定して帰結を導いている。ただし2.3節の「譲歩」とは異なり(12)の例文は既定事実について述べているため、(13)のようにタトエを補うことが不可能である。そのため、既定事実の意外性を強調する役割を果たすものとして分類した。

(13) a. \*(たどえ) こんなに素晴らしい本だって、当時は全然読まれなかったんだね。

[cf. 丹羽 1995: 483, ②a]

b. \*この辛さには (たどえ) インド人だってびっくりした。

[cf. 中西 2014: 230, (20)]

なお、この種のダッテととりたて詞サエ・スラは (14) のように互換が可能である。

(14) a. こんなに素晴らしい本 {だって/さえ}、当時は全然読まれなかったんだね。

[cf. 丹羽 1995: 483, ⑳a]

b. この辛さにはインド人 {だって/さえ} びっくりした。

[cf. 中西 2014: 230, (20)]

「意外」というラベルについては定延 (1995) のモ・デモについての言及<sup>1</sup>や、定延 (1995) をふまえた蓮沼 (1997) のダッテについての言及を踏襲している。

## 同類

ここで扱うダッテは、デモやサエ・スラとは互換が不可能でありモのみ互換が可能である。そのため、モについての先行研究をふまえて分類を設定した。

定延 (1995) はモの用法の一つとして、表現される事態 (言表事態) と類似する事態 (類似事態) を話し手が先行文脈領域に見出すことができる時に用いられる「基本的なモ」を設定した。<sup>2</sup>同類のダッテは、その基本的なモと同じように用いられ、言表事態が類似事態と同様の性質を持つことを示すものとして設定した分類である。分類名称は丹羽 (1995)、定延 (1995)、蓮沼 (1997) を踏襲している。

(15) a. 太郎は元気だ。次郎だって元気だ。

[cf. 丹羽 1995: 494, ㉒a]

b. あなただって同罪だ。

[作例]

(15) のダッテは、「先輩」が「同級生」と同じように「来た」という事実、「あなた」が「私 (文中では言及されていないが、話し手のこと)」と同じ罪を犯しているということを示すために用いられている。本分類では、定延 (1995) の基本的なモの定義に従いこの文における「先輩」「あなた」を「言表事態」、「同級生」「私 (話し手)」を「類似事態」とし、類似事態を話し手が先行文脈領域に見出せるものを同類のダッテとした。以下、この類似事態

---

<sup>1</sup> A.2.1.3 を参照。

<sup>2</sup> A.2.1.2 を参照。

という概念を用いた理由について説明を加える。

蓮沼 (1997) はとりたて詞ダツテの特徴として、(16) のように他のとりたて詞との意味の共通性を示した。

(16) 取り立て詞「も」「でも」「だって」の用法

	同類	譲歩	逆接	例示	意外	当然
も	○	×	×	(×)	○	○
でも	×	○	○	○	○	×
だって	○	○	×	×	○	○

[蓮沼 1997: 206, 表 3]

(16) ではダツテとモ、デモの交替の可否による意味の共通性が示されているが、同類と当然の項目で交替の可否が同じである。つまり、(17) のような文をモ・デモとの交替によって見分けることができない。

(17) a. 同級生が来た。先輩 (も/\*でも/だって) 来た。

[蓮沼 1997: 206, (22a)]

b. あんな事言われれば腹 (も/\*でも/だって) 立つよ。

[蓮沼 1997: 206, (22f)]

同類と当然の用法を分けるのであれば、モ・デモとの交替の如何ではない分類基準を設けるべきである。今回の分類では「類似事態が存在するかどうか」という分類基準を設けることで (17a) と (17b) のダツテを区別することができる。

また、この分類のもう一つの特徴として (18) のようにサエ・スラとの互換が不可能であることが挙げられる。

(18) a. 太郎は元気だ。次郎 {だって/\*さえ} 元気だ。

[cf. 丹羽 1995: 494, ⑫a]

b. あなた {だって/\*さえ} 同罪だ。

[作例]

### 柔らげ

この用法は、前節の同類のダツテに対して、話し手が類似事態を先行文脈領域に見出すことのできないものとして設定したものである。分類の名称は沼田 (1986) の「やわらげのモ」を踏襲している。

(19) a. あんなことを言われれば、腹だって立つよ。

[中西 2014: 236, (41)]

b. 太郎だって成人したことだし、そろそろゆっくりしてもいいだろうか。

[作例]

ここで分類される (19) のようなダッテは、前節で扱った同類のダッテとは異なり、何かと同様の性質を持つことを述べるわけではない種類のものや「ooにしたって」というような主題提示の意味合いを持つもの<sup>3</sup>である。(19) のような例文では、「腹」「太郎」と同様の性質を持つ類似事態は想定できない。

定延 (1995) はモについての言及で、この種のダッテと同様の働きをするモを色々のモ、当たり前モ、通念のモなどに分類している。<sup>4</sup>しかしこれらの用法は、類似事態が想定できないもの非常に抽象的であり、具体的な事態を特定することはできないというものである。また色々のモ、当たり前モ、通念のモについてはその想定されうる類似事態の抽象度によって分類がなされているため流動性があり判別が難しい。そのため、これらのモと同様のダッテについては柔らげの機能を持つものとしてひとつにまとめておく。

---

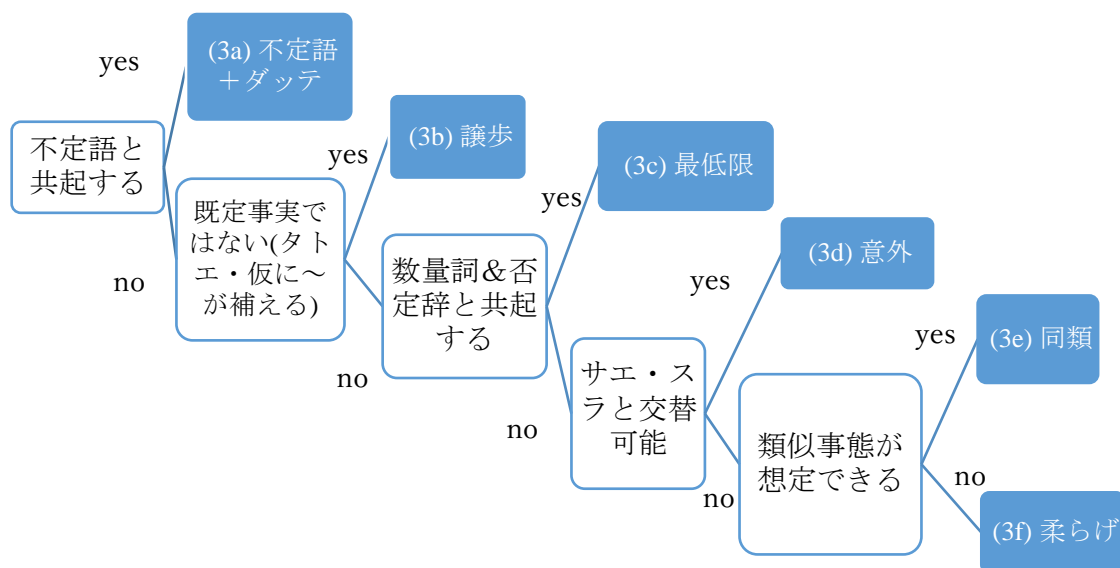
<sup>3</sup> 丹羽 (1995) による主題提示と同類の概念を踏襲している。A.3.2 参照。

<sup>4</sup>A.2.1.2 参照。

## フローチャートの提案

以上の説明を踏まえ、本節では用法分類を実践する上でのガイドラインとして (20) のフローチャートを提案する。テストの内容は 2.2 節から 2.7 節で述べた各分類の特徴に沿ったものである。ここではテストの流れをこのように構成した理由について説明する。

(20)



まず不定語と共起する (取り立てる対象が不定語であるか否か) というテストは、前述の通り不定語の共起がもたらす容認性や内省のブレを防ぐために最初に行うものとする。このようにすることで、不定語の影響によって後のテストの段階で誤って分類されてしまうことを防ぐことができる。

次に譲歩の用法を分類するためにタトエが補えるか否かというテストを行うが、これは (21) のような例文を譲歩の用法に分類するためである。

(21) a. 10人 【だって/\*さえ】 敵わないだろう。

[作例]

b. 歌手でもタレントでも、女優 【だって/さえ】 圧倒できる自信がある。

[作例]

(21a) の文は数量詞と否定辞が共起しているが、前節で述べた最低限の用法とは異なり「たとえ 10人いたとしても敵わない」という文意である。また (21b) の文は「女優」という言表事態に対し「歌手」「タレント」といった類似事態が存在しているものの、「女優のような大

物を圧倒できるわけがない」という推論を否定する意味合いの方が強いものである。このように複数の分類基準をクリアする例文が現れたときに、このテストが優先されることでより文意に近い分類が可能になる。またサエとの互換については、(21a) と (21b) のようなブレが生じるために後の段階で用いることにした。

その次に、最低限の用法を分類するために数量詞と否定辞が共起するかというテストを行う。これについても次に実施するサエとの互換性のテストにおいて (22) のように互換可能かどうか曖昧である文が存在したため、サエとの互換性のテストよりも先に分類しておくのが良いと判断した。

(22) お客は 10 人 {だって/?さえ} 来なかった。

[沼田 1986: 166, (57)]

意外の用法を分類するためのサエとの互換性のテストについては譲歩と同様に、(23) のような「サエとの互換」「類似事態の存在」の 2 つの分類基準にあてはまる例文を意外の用法に分類するために優先するものとする。

(23) この絵には両親だって専門家だってびっくりした。

[作例]

次章では、フローチャートに従って用法分類を実践した結果について述べる。

## 分類の実践

以下は、実際にダッテについての例文を前章のフローチャートに従って分類した結果である。現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) を使用し、「だって」という文字列の検索結果 19,499 件のうちダッテがとりたて詞として使用されている例文を 100 件抜き出し、フローチャートに従って分類した。

なお例文は、文頭に出現するもの、断定のダ+引用・伝聞のッテの用法、「せんだって」など語の一部であるもの、「だから知ってるんだって」などの主張を表すものなどを除外して抜き出したものである。

## 不定語+ダッテ

不定語と共起するダッテとして、抜き出した 100 例のうち 21 例がここに分類された。「とりたてる対象が不定語」という明確な条件のため分類のブレは少なく、不定語によって生じる「制限がない」といった印象になじむ文がすべて分類された。

- (24) というのが人間の正直なところではないか。そんなことは誰だって分かっているはずなのに、自分はそうじゃないみたいな顔をしている  
[LBr1\_00005]
- (25) せてもらいますが。1. 失うものがどんどん多くなっている2. 何だってクレジットカードで買えばいいです。  
[OC12\_01772]
- (26) てて、どうしてもっと調べなかったんだよ。ちょっと調べれば、いくらだってヒットするじゃないか。あの時、ちょっと検索していれば、医者が一言「  
[LBr9\_00153]
- (27) 権力欲と利欲の戦いにすぎない。戦争で犠牲になるのは、いつだって、心ならずも戦場にかり出される兵士たちであり、愛する者を奪われた  
[LBi9\_00216]
- (28) 力では闘わないだろう、ということもわかっていたんです。誰だって、そうだと思いますよ」 「この国にやってくる平和部隊 (米国  
[LB19\_00175]
- (29) 固さ。こんなイメージの延長線上です」 ね、こんな文章読んだら誰だって、「恋」しちゃうでしょ？ ああ、そしてそして先日、ほんじよはついに“夏  
[LBn7\_00057]
- (30) あれば、「似たもの」「真似たもの」を見るくらいなら、誰だって直接、本物のある場所へ行くでしょう。やはり観光の力となるのは、「  
[PB46\_00090]
- (31) 三菱のクルマがずらりとトヨタみたいになったら、その時は誰だってトヨタのほうを選ぶに決まっている。本家本元のほうがすべての面で信頼  
[OB1X\_00273]
- (32) 薄いパジャマ一枚で真夜中に山の中を歩いていけば、どんなことだって起こりかねませんから。いずれにせよ、急いで方策を考えなくてはならない  
[OB5X\_00176]
- (33) 間を置いて僕がそう言った。「先程、『やろうと思えば何だってやれた』と言いましたよね」「ええ」「それはどんなことだった  
[PB39\_00146]
- (34) 、性急に経験した。流行は流行し、徒党は徒党した。いつだって修辞が詭弁を棒引きにした。誰れにもみえない場所で、誰れかが  
[OV2X\_00060]
- (35) だ。 彼はこの女を知っていたのである。いやいや、誰だってこの女を知らぬも



のではないはずだ。 それは、二、三年まえ

[LBp9\_00070]

- (36) の考えはどう変わったか、知る方法がないんだもん。どんな候補者だって、その日に何を話したかは、表に出てきていいんだ

[PB32\_00115]

- (37) れたら、いつのまにか友だちがいなくなってあたりまえだ。 誰だって、不愉快になったり、イヤな思いはしたりしたくない。感情的に

[LBt1\_00015]

- (38) のはやめようと思っていたのです」 「まさか…」 「いつだって、そう思っているわ。でも軀のほうが先に動き出して…」

[OB5X\_00169]

- (39) ないよ」 王さまは、呆れ果てて嘆息した。 「どんな男だって、そんなことを要求されたら、恐れおののいてすごすご引き下がるに決まっている」 王

[OB5X\_00028]

- (40) はドアの向こうに快適な温もりと美味しい食事があることを感じて、何だって握る気になっていたのである。乾いた服を着てぬくぬくし、

[LBs9\_00047]

- (41) たが、それでも、これだけの爆音ならたとえ不意打ちでなくともだれだって身を震わせて身体を縮こまらせるだろう。奇妙に冷静だった水彩も、そして水彩

[PB39\_00191]

- (42) のは得意だ。 しかしレポートを書くのは苦手なのだ。だれにだってできないことの一つくらいはある。見栄も外聞も捨て、紗織のいる営業

[OB5X\_00040]

- (43) ? 旅行どころじゃない?」 「そうでもないけど...食事ならいつだってオーケーよ」 「食事をするんだったら、その晩は久しぶりにホテルの

[PM21\_00200]

- (44) その当時は命がけの取材だったんだがね。先に行く者はいつだってそうなんだが、もう遠いものになってしまいましたね」と、文学

[PB44\_00288]

- (45) の青年と一郎のキャンプにまぎれ込んでいって、どこへ移動してゆくことだって出来る。 恵子と同棲してからは、あちこち旅行はしたけれども、宿

[OB0X\_00013]

## 譲歩

ここではダッテが後続する名詞の前にタトエが補えるか否か、というテストを行い、16例

が分類された。このテストで大方は同じ用法の例文を分類できたものの、(52) や (60) のようにタトエが補えるか否か容認度にブレが生じる可能性のある例文や今回コーパス検索において設定した 20 文字の前・後文脈では文脈をうまくつかめない (50) のような例文も存在した。

- (46) そこそこやれるはず」なんていう評論家は、松井に対して失礼。四十本だって十分狙えるバッターですよ、松井は。権藤 マスコミに追い回されて、シーズンが始まる  
[PM31\_00439]
- (47) が渴くんだよもうおまえこれ...おさえろっつーほうがむりっつーか...。学校でだってきにせずに血がのめたらいいのにちくしょうよおおマジあたまぐらぐらすん  
[OY14\_23234]
- (48) ないのかしら」 「今すぐなんて言わないよ。何年、何十年後だってかまわない」 ディードリットは、エスタスの顔を正視することができずに、彼  
[LBf9\_00189]
- (49) ですよ。 これ何も親子ばかりじゃないんです。考えてみたら夫婦だってそうなんです。この間離婚した人が来たんですけど、ご主人  
[PB23\_00394]
- (50) 幕府も、どうしてこんな男を放っておくのかわからない。近藤だってこの男に及ばないかもしれない。 いつか八辻ヶ原で伊庭八郎にこの男  
[LBo9\_00061]
- (51) つかないうちに、打ち切ったほうがいいと思いませんか。 スポーツ選手だって、見ともない姿を見せる前に引退するのだから。 この間の、淀工  
[OC01\_01347]
- (52) ます。 「これ、ほしかったんだ。頑丈そうだね。これなら敵だってかなわないよ」 髪の毛を耳のところで切りそろえたおかつぱで、くるくるよく動く  
[PB32\_00183]
- (53) なもの。 ワインなんか年代物でなくても、一本千円の安物だっていいのです。私はもちろん味も大切にしますが、それより、どんな運氣  
[PB11\_00134]
- (54) 「どうして」 「さっきも言ったように、馬と車だって、どこを進むか—たとえば、山道か、車のために造られた道か  
[LBt9\_00102]
- (55) 上がっていくんだと思う。これはヴァイオリニストだけじゃなくて、それは画家

だって、作曲家だって同じよ。真理子 それはそうよね。文子 画家なんか

[LBt7\_00056]

- (56) 人間にとって楽しいものだと思います。自分自身が生まれたときの映画だって、楽しくないわけがないでしょう。しかし一般に、子どもたちがそういう映画を

[PB21\_00032]

- (57) コルトは大股で追いかけなければならなかった。「衣装とかは？ いまだって女性はいろいろ、そろえるんだろう？」 「知らないし、興味もないわ」

[PB39\_00619]

- (58) おいて、気分に合わせてチョイスしたい。たとえ嫌なことがあった日だって、お風呂でゆったりと過ごせばすっきりハッピー！写真／遠藤聰一 取材・文／

[PM41\_00003]

- (59) どうしようもない」と添える私のことばを遮るように、「わが子だって、この頃新聞沙汰になる、ひどい親子の憎しみあい、いろいろあるでしょう。ほんとうに厭気

[PB33\_00442]

- (60) いい。これは、何も勉強だけに限ったことではない。遊びだって、時によっては必要だし、大切なものだということは前に

[OB3X\_00148]

- (61) 現れればかわいそうだって面倒見たけど、これだけ人がくりゃ、土地の人だってそう毎回親切にしてくれないよ。観光地の連中なんて、今やみんな包丁

[OB4X\_00001]

## 最低限

ここでは数量詞・否定辞と共起するものを分類したものの当てはまったものは3例のみで、どれも「一度だって～ない」「一回だって～ない」というものであった。

- (62) 一回だって親父は俺の目をちゃんと見たことがないよ。いつだってむやみに怒るばかりでさ。ひとのいうことなんか何ひとつききやしねえもん。

[LBk9\_00173]

- (63) なくなっちゃうのに。だからぼくのせいじゃない。これまで一度だってぼくが悪かったことはない。絶対はない。それでも、ほんとはどうな

[OB6X\_00007]

- (64) た。「俺、舞台からずっと見ていたけど、伊神さん一度だってあの外人と口きいてません」 耕助が、間にはいった。「

[LBi9\_00180]

## 意外

ここではサエとの互換が可能かどうかというテストを行い、互換可能なものとして以下の12例が分類された。

- (65) ありませんか、ええ。あんたの赤い糸の一件、あいつは、今だって、まだ話に出るんですからね。」 大番頭はもっもらしい顔をし  
[LBqn\_00038]
- (66) で示しながら言った。「たしかにそうだ。だがしよせん、裁判官だって神様じゃねえ。法律だって聖書じゃねえ」 しばらく考えてから、ううん、  
[LBn9\_00123]
- (67) だと思わない？」 「何がだ？」 「貴族の科学力だって、いきなり最高だったわけじゃないでしょう。少しずつ進歩して現在のレベルに達し  
[LBt9\_00260]
- (68) 生きられない。無価値どころじゃない、価値に背いた反価値ということだってある。「真・善・美」の反対で言えば、醜いものは生きる意味  
[PB41\_00173]
- (69) この建物の中にいることが分かります。まだ、普通のお勤めの人だって出勤するかしないかぐらいの時間なのに、忙しそうに立ち働いているらしい  
[PB35\_00154]
- (70) あるので、名前だけというのはカウント外だと思います。高田亭だって落語家という「役」でしたから。高田氏の本業は放送作家です。  
[OC01\_00595]
- (71) がそろっていた。家に人がいないことが分れば、押し入ることだって出来る。電話が必要だったし、誰にも迷惑を掛けずにすむと思っ  
[LBf9\_00148]
- (72) 関係ないわ」 「セフォバ…」 「わたしに話させてちょうだい。モーセだってふつうの男なのよ。過去のことを忘れられずにいるかもしれない  
[LBs9\_00197]
- (73) 行った。「今じゃ四世よ。日本語は全く話せない。三世だって、オレたちはアメリカ人だ、日本人じゃない、と言うんだからな。  
[PM11\_00704]
- (74) ないでくれ。それなんですよね。「永さん、私はシベリアにだって耐えたんですよ」永 実はね、あなたは知らないだろうけれど、その

[PB27\_00089]

- (75) 私たち 照れくさくて手もつなげないの今時 高校生だって街なかで キスして  
るのに椅子に手を掛けるふりをして小指が少し

[OY14\_07091]

- (76) 言うとかラウン、セドリック (フーガ) クラスからでしょうね (四百万円)。ブル  
ードシルフィだって上品さは高級車並だよ。

[OC06\_06312]

このテストを行った際、(70) のように個人名などが出てくる文などで、文脈もしくはその人物に対する話し手の認識によってサエと互換可能か否かが変わってしまうという例が存在した。(70) では、「高田亭」という人物が有名な落語家であるだろうという話し手の認識が存在するという前提で「あの高田亭でさえ」という文脈で用いられる場合と、そういった認識が存在せず単に主題を述べるものとして柔らげのダッテと同じ働きをしている場合でサエとの互換性にブレが生じてしまう。ここがどうしても文脈による判断になってしまうため、同じ例文でも分類がブレる危険性があるといえる。

## 同類

ここでは類似事態が想定できるか否かというテストにより、想定できるものとして 41 例が分類された。

- (77) 。プロになり技を磨くということが特例だとしても、男性だって食に興味がない  
わけではないということだ。人間が生きていく術

[PB42\_00362]

- (78) んきっずへ。☎0 4 4-9 3 5-1 2 2 8 パパだって、たまには育児について語りたい  
い パパだって、熱心に育児にかかわれば

[LBp5\_00016]

- (79) 引きますが、個人の趣味なので特にかまわないと思いますよ。男だってがらくた  
みたいな物を大切にとっておいたりするじゃないですか。

[OC09\_05996]

- (80) するというのが事実です。宇宙も、地球も、生命も、人間圏だって誕生以来、多  
様化してきた。さまざまな共同体が生まれてくるという

[PB33\_00772]

- (81) 眼を、だ！あいつの子供でも連れて来て脅せば、向こうだって考える！」理性を  
顧みない非情な悪口が、保護者の口から次々に

[LBt9\_00115]

- (82) ともはという女子だったんだ。かみきは次点だった。もちろんこれだって大したことだ。あ、オレたちの順位は気にしないように。  
[LBk9\_00214]
- (83) 日曜大工では難しい大がかりな工事はともかく、壁紙の貼り替えくらいなら奥様にだってできないことはない。そうはいつでも、簡単にはいかないし、できるなら  
[PB23\_00429]
- (84) それどころか、この雑技団を利用してあんたたちがやってきたことだって、全部ぶちまけてやる！ そうよ、あの剣持とかいう日本の刑事にさ  
[OB5X\_00253]
- (85) はぎゅう〜とつかみこんできて、さらにモミモミしてくるじゃない。あたしだって、いいかげんブチ切れた。「ハッキシ言ってキモイんだよ、あんた！ シツコ  
[PB45\_00167]
- (86) もんかね。こんなうち、誰も入ってきやしないよ。これまでだって、ずっと鍵なんかかけたことないんだ」 振り返ると、康代は塩谷のほ  
[LBn9\_00042]
- (87) よりも体内の損傷度に注意しなければいけない。そのことは、君だって百も承知しているはずだろう」 黒木の言葉には、自分の助手を  
[LBm9\_00137]
- (88) じゃないのよ。それを言うならあなたの時給だって」  
[OB6X\_00126]
- (89) 合うな」「昨日にかぎったことでないさあ...」 今日の人たちだって、ほんとうは同じことを言いたかったはずよ、と付け加える。 工事に思わぬ  
[LBo9\_00083]
- (90) 週末帰っちゃうからいいかもしれぬけれども、ずっと東京に住んでいる人間だっているんだ。もう東京で生まれる幼児のほとんどはアトピーであり、ぜんそくですし、  
[OM66\_00001]
- (91) も、二度と会えないってことは賭けてもいい。モモはこれまでだって黒人とはそんなに仲良くやってたわけじゃないし、ここで急に仲良くなる  
[PB19\_00319]
- (92) 下さいですッ！」 「そうだね...でも心配無用だよ。僕にだって案くらいあるんだネメシア」 瞳を見開き微笑むソーマ。その発言に注目が集まる  
[PB49\_00424]

- (93) あたし、お母さんのことも死なせちゃって...お、お父さんだって...」 嗚咽混じりの声で由花がそう言っていたのを、冬馬は  
[LBn9\_00036]
- (94) 。「何があったか、つべこべ話したくはない。君のスタッフのことだって話したくはない。話したいのは君のことだ」私は大統領を指さした  
[LB13\_00074]
- (95) はそのような事についていいか悪いかは別にして、系統だって勉強することはありませんね。  
[OC10\_00528]
- (96) 思っているのであれば、こういった感じの画が欲しいということだって考えていて当たり
- (97) 子供を作る為にそうしてるって言うんだけど...でも、これだって、おかしいと思うの。最初から動物に食べられることを目的にして、果物  
[LBh9\_00122]
- (98) すかせているやつには文句も言わずに食べ物を与えてくれる。服だって着古しただけどくれるよ。貧乏で困っている人間にはみんな親切だ。  
[LBg9\_00192]
- (99) ですが)、二千二年には本体が初めて引き下げられました。介護報酬だって施設は引き下げられたのです。当然そういうことをやっていくのは目に  
[PB43\_00437]
- (100) きついです。それに横浜の女性でも元々横浜に住んでいた人以外だっているわけですから決め付けはよくないですよ  
[OC14\_05568]
- (101) 「お休み井戸」とも呼ばれたと標示されている。私たちだって、水のボトルをペットにして歩いているけれど、昔の旅人には汲み上げ  
[PB52\_00071]
- (102) で、すでに真弓さんが藤野新一郎を告訴していたんですよ。あなただって、そのことは知っていたはずですよ。真弓さんからも聞いていたでしょう  
[PB19\_00371]
- (103) ないのかしら」 「今すぐなんて言わないよ。何年、何十年後だってかまわない」 ディードリットは、エステスの顔を正視することができずに、彼  
[LBf9\_00189]
- (104) を保持していくにも、金はあるだろうし、あの病院の特別室だって、一日何万とかかるはずだよ」 「しかし、白井家は旧家だ  
[LBr9\_00114]

- (105) お店は消滅) a uって 儲かってんのねえーそんな感じしたわ内装だってバリッとお金かかってそうだし電気は無駄に明るいし無料でこんなものまで  
[OY05\_03188]
- (106) に言った。「冗談じゃない！ 百万の大金に、父さんだって二の足を踏んでるんだ」 酒匂が血相を変えて怒鳴った。しかし息子は  
[PB49\_00187]
- (107) いる。国民にとっても、郵政民営化などどうでもいい。日本経済だってどうでもいいのです。有権者として、小泉シアターに参加することの  
[LBt3\_00101]
- (108) 噂するような人物ではない。それでも内心では、この令夫人だって、結局は「外人のやつら」の一人に過ぎない、あんな連中とおなじで  
[LBd9\_00179]
- (109) あながちダテでもないようだ。嫌なところを衝いてくる。「おまえだって忘れたわけじゃないだろう。娘の美佳が犯行直後の森脇を見てるんだ  
[LBt9\_00192]
- (110) ようにいいました。「イギリスだよ、もちろん。ぼくたちのおばあさまだってイギリスにいるんだ。メイベルお姉さんは去年おばあさまとこへ行った  
[PB39\_00144]
- (111) ながら展覧会主催者や作家に買収されるのを習慣にしている人物だって実在しているのだが。  
[LBd7\_00031]
- (112) ないにされた小春は、開き直った口調で弁解する。「わたしだって何度も挑戦したのよ。だけど、笙造さんがうますぎるんだもの  
[LBo9\_00153]
- (113) ご希望のときに、いつでもわたしが使いに参ります」 「それだって不都合だ」と、Kが答えた。「まる一年というもの、  
[PB19\_00568]
- (114) ずだよ。尾張の足軽の子が天下を狙ったじゃないか。ぼくだっていつかこの店をビッグストアにして全国をチェーン店で結ぼうと夢を描い  
[LBf9\_00137]
- (115) 怪しい。医学部全員が敵に見えてきた。自分の教室の人間だってどうかわからないぞ。高木の疑念は、以前医学部長に個人的に  
[LBt9\_00100]
- (116) 二葉なんかやらかして刑期のびればいーんじゃねえのお？」 「ばーか、姫だって、早くシャバに帰りてえよな。だろ？」 「え…」 ぼくは



[LBf9\_00122]

- (117) 考える」とか、ゲーム会社は「作る前に考える」ってえことしないのかなあ。  
テレビだって、人殺しや血ばっかり出てくる番組をたくさん作んなきゃ、うちの  
会社やってけない

[PB22\_00159]

- (118) 編集長は洗面をつくった。「わたし手伝いますよ」「紙だってコピーだって  
無料じゃないのよ。それを言うならあなたの時給だって」

[OB6X\_00126]

ある程度の例文では類似事態は先行文脈に記述があり、同様の性質を持つことが明白だった  
ので問題なく分類することができた。また、多く現れた「私だって」については、記述こそ  
ないものの、聞き手や話し手、周りの人物などの存在が想定されたうえで彼らと同様の性質  
を持つことを示す目的で用いられているためここに分類している。

また主題を提示しており、かつ類似事態が想定できる文として (77) の「男性だって食に興  
味が無いわけではない」のような例がある。これは名詞の性質上、「女性は食に興味がある  
ものだが男性も同様だ」という文意となるためここに分類した。

## 柔らげ

ここでは類似事態が想定できないものとして、7例が分類された。

- (119) ては、そんな滅多なことを言ってもらっては困る。もちろん、貴瀬だってそれを  
望んでいるわけではないのだろうけど。「なあに、そういう

[PB59\_00293]

- (120) 後継者不足のよーですよ。美しいモノっていろいろありますからねえ...工芸品だ  
って土とか木とか金属とかあるじゃないですか。美術本読むとか

[OC04\_01622]

- (121) 胸くそが悪いからさ。あいつの貧乏ゆすりには、いらいらする」「石松だっ  
て、根はいい野郎かもしれない。なんでもあけすけに喋るくらいだ」

[PB39\_00549]

- (122) ほら、下世話な言葉に一目惚れというのがあるだろう？ あれだって、容貌やち  
よっとした言葉がきっかけで恋に落ちるわけで...僕の場合それ

[PB39\_00376]

- (123) 口説の筆談をいとわないのも、善意からくるものなのだ。この警官だって「警  
官」というより歌にうたわれる“若いお巡りさん”でニュアンスのタイプな

[PB53\_00599]

- (124) の内容も見破っていた。はじめは気になっていた厩の匂いだって、どうせ、隣の部屋に寝糞か馬糞を持ち込んでいるのであろう。兄弟は

[LBi9\_00175]

- (125) 歴史に縁がないようだが、ちがう魅力にみちあふれている。 金沢文庫だって横浜市だし、周辺である緑区の方にしても、さまざまな歴史

[PB37\_00261]

以上の7例は今回コーパス検索で設定した20字の前・後文脈で判断したところでは類似事態が想定できない例である。しかしながら、(123)のような例文について100字の前・後文脈を見てみると、(126)のような文になる。

- (126) 慰謝料を要求できるともかぎらないんですからね！ イヤこれは一寸すぎました。失礼でした...ハハハ」 警察にもいろんな型の人間があるものだとその軽佻な饒舌に、僕は呆れた。 しかし、話し合ってみれば所詮人間はみな根はイイ奴なのだ、こうして俺のために長口説の筆談をいとわないのも、善意からくるものなのだ。この警官だって「警官」というより歌にうたわれる“若いお巡りさん”でニュアンスのタイプなんだろう、等と苦笑する余裕が出てきていた。事件そのものは、もはや済んだことだし、どうでもいいと思った。ただ胸の中に別の大きな、複雑で沈痛なものにみたされる感じがあり、それがなお僕の口を重く閉じさせ、端目に若しかするとツンボついでに唾

[PB53\_00599]

この例では「警官」という言表事態に対して「人間」という類似事態が必ずしも想定できないわけではない。そのため、類似事態の有無を判断するためにはより広く先行文脈を把握する必要があるといえる。

## おわりに

本論文ではとりたて詞ダツテについて、モ・デモの先行研究もふまえて、不定語+ダツテ・譲歩・最低限・意外・同類・柔らげという 6 分類を設定した。その上で分類に基づき、先行研究で用いられてきたモ・デモとの互換というテストを敢えて用いないフローチャートを提案した。この分類とフローチャートは他のとりたて詞モ・デモ・サエ・スラなどにも適用することができるため、それらのとりたて詞どうしの互換性を一律にし、どのような用法を共有しているのかが明確になる。

また今回の分類の実践では、文脈によっては今回設定した分類の中で複数の用法が想定される例文がいくつか存在した。それらの想定される用法の違いは取り立てるものに対する話し手の認識や文脈によるものが大きかったため、違いが生じる例文をより多く集め、話し手の認識と文脈により着目した分類基準を模索していくことが今後の課題である。

## 付録

ここではダッテについての先行研究の他、今回の分類案を提案する上で重要となるデモやモなどについての先行研究を紹介する。

### A.1 寺村 (1991)

寺村 (1991) は、「N デ+モ」と考えられるものを除いた「N デモ」には2種類あると述べている。

- (127) お茶でも飲みませんか。  
[寺村 1991: 129, (454)]
- (128) 子どもでもあるといいんですがね。  
[寺村 1991: 129, (455)]
- (129) 先生でもできない無理な問題だ。  
[寺村 1991: 129, (456)]
- (130) 捕食動物でも協力によって大きな動物をたおすことができる。  
[寺村 1991: 129, (457)]

(127)(128) は提案、誘いや命令、依頼、忠告などのムードのものが多く、寺村(1991)はこれを (131) のように述べ、「提案のデモ」と呼ぶ。

- (131) <P という述語とある関係で結びつきうる或るセット (S) のなかから或るメンバー (X) を一例として取り出し、別に X と特定するわけではないが、要するに S-P という事態を実現することを提案 (勧誘、命令など) する>  
[寺村 1991: 129]

またもう一つの用法として、(129)(130) のようにある条件 (A) が成立すると、当然その帰結として (B) ということになるという推論を仮定して、その推論を否定する意味をもって使われる用法が存在する。寺村 (1991) はこのような用法のデモを「譲歩のデモ」と呼ぶ。これらは前述の提案のデモとは対照的に主張的なムードの文に現れる。

### A.2 定延 (1995)

#### A.2.1 モ

定延 (1995) が分類するモの用法は (132) の通りである。

- (132) a. 基本的なモ: 田中が来る。佐藤も来る。

- b. 色々のモ: その日は天気も良かったので公園は賑わっていた。
- c. 通念のモ: 夜もふけてまいりました。
- d. 当たり前のモ: 「ああ腹が減った」「1日1食なら腹も減るだろう」
- e. 意外のモ: 中学生も合格だ。
- f. 確定回避のモ: あの時は、たしか学生が10人も来ていたかなあ。

[定延 1995: 229, (1)]

モの意味のズレは、(132a)の基本的なモを中心に、知識のまとめ上げ・事態実現可能性の推し量りという2つの心的プロセスに沿った2方向にまとめられる。

#### A.2.1.1 基本的なモ

定延(1995)は先行文脈で表現された情報を話し手がストックする心内の領域を仮に先行文脈領域と呼び、表現される事態(言表事態)と類似する事態(類似事態)を話し手がそこに見出す際のモを基本的なモとする。類似事態は先行文脈ではなく後続文脈で表現される事があり、また類似事態の位置とモの用法は本質的に関係しない。

#### A.2.1.2 知識のまとめ上げ

定延(1995)によれば、類似事態が必ずしも先行文脈領域になくても、類似事態が一般的抽象的知識(彼は気分屋だ、あの道は混みやすいなど、自分で個別具体的な知識からまとめ上げた知識)である場合はモが使える。言表事態が心内に貯蔵された一般的抽象的知識と類似している場合である。この時のモが、定延(1995)における色々のモ・通念のモ・当たり前のモである。これらの区分は一般的抽象的知識の程度によるものである。知識のまとめ上げが行われるときの3つのモの例は以下のとおりである。

- (133) a. その日は天気も良かったので公園は賑わっていた。  
 b. この本?別に面白いところもないけど、買うなら今だと思うよ。  
 c. 留学中はつらいこともあるだろうが、頑張りたまえ。  
 d. 坂田君?宿題もちゃんとやる真面目な子だけど。

[定延 1995: 233, (4)]

- (134) a. 夜もふけてまいりました。  
 b. 息子も5才になりました。  
 c. しかし坂田もバカなことを言ったもんだねえ。  
 d. しかし坂田も頭がキレルねえ。

[定延 1995: 234, (8)]

- (135) a. 「ああ腹が減った」「1日1食なら腹も減るだろう」

- b. 1日5食なら、腹も出てくるだろう。
- c. 交通費ナシで時給300円だよ。学生たちもヤル気なくしますよ。
- d. こんなこと言われたのよ。実家に帰りたくもなるでしょ。

[定延 1995: 236, (11)]

(133) が色々のモ、(134) が通念のモ、(135) が当たり前のモの例であり、上から下に行くにつれて一般的抽象的知識は具体的色彩を失いよりスキーマティックな知識となっている。また、色々のモは問いかけや命令のムードと両立しにくいという特徴がある。

### A.2.1.3 事態実現可能性の推し量り

定延 (1995) によれば、言表事態が類似事態を含意する場合にもモが使える。実現が不確定な事態についても既有知識を駆使して実現可能性を推し量ったり、類似した事態どうしについて実現可能性の高低を比較したりする場合であり、これらの心的プロセスを定延 (1995) は事態実現可能性の推し量りと仮に呼ぶ。この時のモが、意外のモ・確定回避のモである。

意外のモは基本的なモと違って事態を実現させた背後状況の属性に表現の重心が置かれるという特色を持つ。「中学生も合格だ」の文において、このモは高校生・大学生だけでなく中学生の合格まで実現させる当該状況の属性 (=合格しやすいこと) を表している。このモを区別するメリットとしては、1つに類似事態が現実世界で実現することが必要でなくなること、もう1つに基本的なモでは説明できない言表事態の実現可能性が絶対的に低いことの要求を説明できることがある。また、確定回避のモとは、事態実現の度合いを敢えて確定せず前後の度合いも候補に含めて表す (136) のようなモである。

(136) あの時、たしか学生が10人も来ていたかなあ。

[定延 1995: 243, (16)]

### A.2.2 取り立て詞デモ

(137) は、定延 (1995) によるデモの便宜的分類である。

- (137) a. 彼は大学の教授だよ。テレビタレントでもあるけどね。
- b. 子供でもあるし、命は助けてやろう。
- c. なるほど、親子五人で6畳1間というのであれば、手紙に訴えてある通り、「狭くて発狂しそうな状態」でもあるだろう。
- d. 中学生でも合格だ。
- e. あの子は外国人でも日本語がうまいね。
- f. お茶でも飲むか。

- g. 演奏会は、まず東京でも行うが、そのあと大阪でも行う。
- h. このステレオは、日本でもトップクラスのメーカーが作ったものだ。
- i. 今日は雨です。でも、小ぶりだから、まだマシです。
- j. (違う話をしている) でも、一郎さんもよく頑張ったわねえ。

[定延 1995: 245-246, (18)]

#### A.2.2.1 意外のデモ—観察対象の指定

(137d) の文の後部要素モは前述の意外のモである。この時デは当該集団から観察対象として1要素を指定するという心的プロセスを表す。

#### A.2.2.2 譲歩のデモ・逆接のデモ

デモは観察対象の指定を表すだけでなく、仮定的判断や事実認定を表す場合もある。前者を反事実的な観察対象の指定を支援する「譲歩のデモ」、後者を事実的な観察対象の指定を表す「逆接のデモ」と仮に呼ぶ。「中学生でも」について、「仮に中学生が受験したとしても」「中学生ではあるけれども」を表す場合である。

#### A.2.2.3 確定回避のデモ

確定回避のモと似た意味のデモとして、(137f) のような確定回避のデモが存在する。確定回避のモに、観察対象の指定を支援・強化するデが前接したものであり、モと違ってモノ表現に後接する。

### A.3 丹羽 (1995)

#### A.3.1 譲歩と同類の「だって」

丹羽 (1995) によれば、「だって」は「だとして」ないし「だってでも」から派生したと考えられるが「でも」と同じ単文中で譲歩を表す用法がある。

(138) a. どんな人だって構いません。

[丹羽 1995: 490, ①a]

b. 男だって女だっていいじゃない。

[丹羽 1995: 490, ①b]

c. そんなことぼくにだって分かるよ。

[丹羽 1995: 490, ①c]

(138) は、より口語的なことを除けば「でも」と同等である。

(139) 試験が終わったら色々したいことがある。旅行にも行きたいし、本だって読みたい。

[丹羽 1995: 490,②a]

(139) のように範列関係を考慮しない用法もある。これは「も」と同じく同類を表すと考えられる。ただし、「も」が単に同類を表すのに対し、「だって」は同類である事態には当該事態も含まれる。つまりこれまで同類であるか考慮されていなかったがここで同類であることを示すという働きをする。

また丹羽 (1995) は、同類の「だって」は (140) のように疑問文には用いられにくいという特徴にも言及している。<sup>5</sup>

(140) 花子に {?だって/も} 会えた?

[丹羽 1995: 491,⑤a]

(141) a. 何 {だって/でも/?も} できる。

[丹羽 1995: 491,⑦a]

b. 何 {?だって/?でも/も} できない。

[丹羽 1995: 491,⑦b]

不定語が伴う場合、(141) のように否定に用いにくい。肯定の場合は譲歩の「だって」と考えられるが、否定の場合は譲歩の「だって」では「でも」と同様否定にはなじまない。また同類の「だって」と考えても、意味がかみ合わない。

(142) あんなこと言ってるけど、あいつだって来てたんだよ。

[丹羽 1995: 492,⑧b]

譲歩に似た用法の「だって」について、(142) のような例がある。これは「でも」には置き換えづらいが「も」には置き換えが可能である。だが、他の人よりも「あいつ」の方が「来てた」にあてはまりづらく、当該事態は同類とは予想されにくいものになりやすい。つまりより周辺的である。

---

<sup>5</sup> デショウ、ダロウなどの確認のニュアンスのものは除く。



- (143) a. 「君は行かないんだね。」 「いや、ぼく {だって/も} 本当は行きたいんだ。」  
[丹羽 1995: 493,⑨a]
- b. 「あなたも行きますか？」 「ええ、ぼく {?だって/も} 行きます。」  
[丹羽 1995: 493,⑨b]

(143a) のように反駁として用いられる「だって」は、あてはまりにくい A が P にあてはまるということから譲歩と近いが、譲歩の場合 A は複数のうちのひとつであったのに対しこちらにはその側面はないので、「でも」との置き換えが不可能である。

### A.3.2 「にしても」「にしたって」との置き換え

丹羽 (1995) によれば、「だって」の中には、「にしても」「にしたって」と置き換え可能なものが存在する。

- (144) a. 私は精神的にもやはり動揺を繰り返し、読む書物にしても {だって}、しばしば変化した。  
[丹羽 1995: 493,⑩a]
- b. 100 万枚以上売れたっていう寺尾聡の『ルビーの指輪』にしたって {だって}、最初は全く売れるなんて思われてなくて、最初は宣伝がゼロだった。  
[丹羽 1995: 493,⑩b]

これは「問題となるのが A にしても (したって)」という主題提示と同類を兼ねたものである。

- (145) a. 太郎は元気だ。次郎 {も/だって/にしても/にしたって} 元気だ。  
[丹羽 1995: 494,⑪a]
- b. 雨が降ってきた。風 {も/だって/?/にしても/?/にしたって} ある。  
[丹羽 1995: 494,⑪b]

次郎について解説している (145a) と違い、(145b) において「風」は主題であるとはいいいにくい。そのため、「にしても」「にしたって」が用いられにくい。「だって」が主題を兼務することもしないこともできるのに対し、この二つは必ず主題を兼務する。

## A.4 中西 (2014)

### A.4.1 肯定的用法の「だって」の特徴

中西 (2014) はとりたて助詞について、(146) のようなことが言えると述べる。

- (146) とりたて助詞というのは、「表出命題が存在しない」ということを前提に用いられる。「表出命題が存在しないということを前提にしている」とは、たとえば、「**X** だって **P**」で言えば、**X** が **P** と結びつくことが普通はありえないと話し手が思っているということである。

[中西 2014: 230, (18)]

中西 (2014) は、(147)、(148) の前提推意は (149)、(150) のようになるとして例を挙げている。

- (147) 大雨だって必ず行きます。

[中西 2014: 230, (19)]

- (148) この辛さにはインド人だってびっくりした。

[中西 2014: 230, (20)]

- (149) 表出命題 (大雨で必ず行く) は存在しない。

[中西 2014: 230, (21)]

- (150) 表出命題 (この辛さにインド人がびっくりする) は存在しない。

[中西 2014: 230, (22)]

「だって」は上を前提にして、それを否定するという帰結推意を導く。つまり、(147)、(148) の帰結推意は (151)、(152) のようになる。

- (151) 表出命題 (大雨で必ず行く) は存在しないのではない。

[中西 2014: 231, (23)]

- (152) 表出命題 (この辛さにインド人がびっくりする) は存在しないのではない。

[中西 2014: 231 (24)]

#### A.4.2 否定的用法の「だって」の特徴

##### A.4.2.1 否定的用法の「だって」の前提推意

中西 (2014) によれば、否定的用法の「だって」は肯定的用法とは別の前提を有する。

- (153) ゆでだこになるというのはその小だこは死んだということだから、その漫画は*ずいぶん残酷だし、それを見て笑う人も残酷だ*、と私はいた。でも夫は「自分だってゆでだこを食うじゃないか」と言った。そういわれると反論もしにくい。

[中西 2014: 231, (26)]

(153) では、「自分がゆでだこを食うなど残酷であること」は存在しないという前提になっ  
ていながら、パラディグマティックな命題 (小だこは死んだという漫画を描くのもそれを  
笑うのも残酷だ) は存在するという前提も存在する。このように、パラディグマティックな命  
題は存在しているが表出命題は存在しないという前提を持つ用法を中西 (2014) は否定的用  
法と呼ぶ。

#### A.4.2.2 否定的用法の「だって」の帰結推意

中西 (2014) によれば、「だって」は (154) のような前提の後半のみを否定して、「表出命  
題が存在しない」ことを表す。これをまとめると、(154) のようになる。

- (154) 否定的用法の「だって」は「パラディグマティックな命題は存在するが、表出命  
題は存在しない」という前提を否定して、「パラディグマティックな命題は存在  
するのではないが、表出命題は存在しないのではない」という帰結推意を導いて  
いる。

[中西 2014: 232, (30)]

#### A.4.2.3 メタ言語的否定を表す否定的用法の「だって」

「だって」は話し手と聞き手に前提推意として認識されていることを否定するので、メタ  
言語的否定を表していることになる。河西 (2000) によれば、メタ言語的 (metalinguistic) 否  
定は、すでに話した文あるいは想定していると考えられる文を対象として、それを丸ごと否  
定するという働きである。

#### A.4.3 肯定的用法と否定的用法の共通点

中西 (2014) は、肯定的用法の「だって」は「表出命題が存在しない」ということを前提に  
しているため、それがわかりやすいコンテクストで用いられる必要があると述べる。(155) で  
は、「なくはない」という二重否定がそれを表している。そして、この二重否定が「存在す  
る」を表すのに相当するため、(156) のように肯定述語と共起する場合が多い。

- (155) 僕はチーム競技に向いた人間とは言えない。(略) またテニスのような一対一の対  
抗スポーツもあまり好きではない。スカッシュは好きな競技だが、いざ試合とな  
ると、勝っても負けても妙に落ち着かない。格闘技も苦手だ。もちろん僕にだっ  
て負けず嫌いなところはなくはない。しかしなぜか、他人を相手に勝ったり負け  
たりすることには、昔から一貫してあまりこだわらなかった。

[中西 2014: 233, (33)]

(156) 大雨だって必ず行きます。

[中西 2014: 234, (34)]

しかしながら、肯定の前提を否定しているのがわかるコンテキストであれば、(157) のように否定述語との共起も許容される。

(157) コーヒーが好きなので、いつもは朝起きるとすぐにコーヒーを飲みたくなる。しかし、今朝は腹痛で好きなコーヒー {も/でも/だって} 全然飲みたくなかった。

[中西 2014: 234, (35)]

また、「X だって P」というのは「X が P ない」を前提にしてそれを否定し、「X が P ないのである」という帰結推意を導くものであるため、否定的用法の「だって」も肯定的用法と同様肯定述語と共起しやすいと述べている。

(158) 上野は「フェミが盛んだった時期がありましたかね。盛んになったことで何か変わりましたか？」と鞆晦する。小倉は、「そんな、自分だってその頃いっぱい本出してもうけといてさ。挑発的にわざと言わんといて。」

[中西 2014: 234, (36)]

## 参考文献

- 奥津敬一郎・杉本武・沼田善子 (1986) 『いわゆる日本語助詞の研究』 東京: 凡人社.
- 河西良治 (2000) 「\*少ししか食べるわけではない—記述否定とメタ言語的否定」 『言語』 29 (11): 59-64.
- 定延利之 (1995) 「心的プロセスから見た取り立て詞モ・デモ」 沼田善子・野田尚史・益岡隆志 (編) 『日本語の主題と取り立て』 227-260. 東京: くろしお出版.
- 寺村秀夫 (1991) 『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』 東京: くろしお出版.
- 中西久美子 (2014) 「とりたて詞「でも」と言い換えられない「だって」」 『京都外国語大学・京都外国語短期大学研究論叢』 82: 227-239.
- 丹羽哲也 (1995) 「「さえ」「でも」「だって」について」 『大阪市立大学文学部紀要』 47: 473-499.
- 蓮沼昭子 (1997) 「「だって」と「でも」—取り立てと接続の相関—」 『姫路獨協大学外国語学部紀要』 11: 197-217.

## 謝辞

本論文を作成するにあたりご指導頂きました指導教員の上山あゆみ先生に心より感謝致します。先生には自分の知識不足により大変ご迷惑をお掛けしましたが、お忙しい中メールや面談などで大変親身なご指導を賜りました。また九州大学文学部言語学・応用言語学研究室の皆様をはじめ、多くの方に相談などを通して支えて頂きました。ありがとうございました。